

文化財調査報告書

調査日：平成22年3月16日

調査委員：武笠朗

- 1 種 別 有形文化財（彫刻）
- 2 名 称 木造阿弥陀如来坐像
- 3 員 数 1 軀
- 4 指定年月日 平成元年3月10日
- 5 所 在 地 柏市増尾1334-1
- 6 所 有 者 宗教法人萬福寺

7 現状及び環境

来迎印を結ぶ等身の阿弥陀如来坐像である。定朝様に倣う穏やかな作風から、平安時代後期12世紀の制作と推定される。

像は、境内の阿弥陀堂内に安置されており、防災防犯等の安置状況に問題点は認められない。

8 取扱い上の留意事項

指定時に「像内に虫損が進行中であり、燻蒸が必要である」と指摘されている。指定後に燻蒸が行われたかは確認できないが、現在虫蝕は止まっており、問題は認められない。

9 公開にあたっての取扱いについて

常時公開はしていないが、拝観希望には応じている。現在の公開方法で問題は認められない。

10 修理について

指定前の昭和60年に修理が行われており、現状では修理の必要性は認められない。

11 その他

今回の保存状況調査で、頭部内に銘文の存在が確認されたが、ファイバースコープによる再調査を行う必要があり、未読のままである。

銘文は、造像銘ではなく、おそらく修理銘かとみられるが、像の伝来を考える上で、貴重な情報となると思われる。今後の調査に期待したい。



正面



左側面



背面（後頭部の内部に墨書銘）



虫損痕



阿弥陀堂の外観



堂内の安置状況